

Case Study

MIZUHO みずほ証券

**アバナードが、みずほ証券の
ChatGPT「MOAIチャット」の導入
支援を通じて、生成AIの業務活用
とリテラシー醸成を支援**

みずほ証券株式会社

みずほ証券のChatGPT「MOAIチャット」の導入支援を通じて
生成AIの業務活用とリテラシー醸成を支援

「スピーディに環境構築する上で、当社の業務環境をよく理解し、特にマイクロソフトの最新テクノロジーに関する知見、ノウハウを豊富に有するアバナードは最適なパートナーでした」

IT 基盤統括部

ヴァイスプレジデント 三上 智洋氏

「生成AIを具体的な業務に対してどう活用できるかをディスカッションする検討会を通じて、アイデアの1つが導入に向けたPoCに進み、複数の部門が継続検討を行っています」

デジタルイノベーション部

ディレクター 安武 敬義氏

社員が安全に、気軽に生成AIに触れられる「MOAIチャット-Build on ChatGPT-」を開発

【背景】

みずほフィナンシャルグループの総合証券会社であるみずほ証券株式会社（以下、みずほ証券）は、中期経営計画のもと、DXを重点テーマの一つに位置づけ、フロント部門や間接部門の業務改革を進めています。安武氏は「デジタル技術やデータ利活用を“手段”とし、お客様により良いサービス、さらなる付加価値を提供していくことに取り組んでいる」と説明します。

テクノロジーの活用において、特に「生成AI」は金融業界においてもインパクトの大きなテーマとなりました。安武氏は「ChatGPTが発表されて以降、同テクノロジーをいかに活用していくかがテーマだった」とし、テクノロジーの進展という環境変化にみずほ証券としてどう対応していくか「単に生成AIを業務に活用するだけでなく、次のステップとして、どのようにお客様や従業員に新たな価値を提供していくか、検討する必要性が高まった」と説明しました。

そこで、2023年2月頃より、生成AI活用のための環境整備について検討が開始されました。検討テーマは大きく次の2つの軸があります。1つは「生成AIに対するリテラシー醸成」です。そのためには、スピーディに、会社の環境から「従業員が安全に生成AIに触れることのできる環境の整備が急務だった」と安武氏は話します。

そして2つ目は「実際の業務にどのように適用するか」の検討を、同時並行的に進めていくことです。

【ソリューション】

そこで、2023年3月頃より、生成AIの実装パートナーの選定が行われました。三上氏は「当社において生成AIによる変革の可能性に着目し、早期に情報収集/導入検討を実施していた。導入に向けては、スピーディにユーザーへサービス提供すべく、短期間で対応が必要と判断し、対応可能なパートナーを選ぶ必要があった」と話します。

そして、「当社はMicrosoft Azureを活用した業務システムやインフラ環境を、アバナードに支援してもらっていたため、当社の業務環境をよく理解してもらっている」点に加え、アクセンチュア、マイクロソフトのジョイントベンチャーという成り立ちから「アバナードは特にマイクロソフトの最新テクノロジーに関する知見、ノウハウを豊富に有しており、当社が望むスピーディな対応を実現してくれることが期待された」点が、パートナー選定の決め手となりました。

アバナードの支援内容は大きく「Azure OpenAIを用いた生成AIの利用環境（基盤）の整備」と「導入後のビジネス活用、新たな価値創造に向けた支援」の2点です。アバナードのマネージャー 佐々木 徳子は「Azure OpenAIの導入支援は、2023年6月から開始された」と説明します。

全社への早期展開を実現するため「アバナード社内の生成AIの専門家チームが中心となり、短期間でビジネス環境に適したセキュリティやコンプライアンスをクリアした環境が構築できるよう、みずほ証券様とディスカッションを進めながら、開発を進めた」ということです。

みずほ証券のChatGPT「MOAIチャット」の導入支援を通じて生成AIの業務活用とリテラシー醸成を支援

セキュリティ面の検討については「クラウドアプリケーションをいかにセキュアに社内にデリバリーするか、これまでの経験や知見をもとに、どんなリスクがあり、どう対応するか、所管部門に対して網羅的な評価をした上で、それぞれのリスク項目にどう対応するか、支援していただいた」と安武氏は述べました。

金融機関はその性質上、特に機密情報の厳格な取扱いが求められます。一方で、生成AIの業務適用や、ビジネスアイデアの創出といったユースケースを考えた時に、生成AIに機密情報の入力を制限すると、利用する社員にとってはなかなか利用が進まないことから「機密情報も含めた入力を許容するというところに機能面ではこだわった」ということです。

一方、開発面では「通常の開発プロジェクトであれば、基本設計からテスト、リリースまで3~6カ月位の期間で開発を行うため、1カ月でのリリースというのは前例のない短期間だった」と三上氏は述べ、その中で「当社にとっても新しいテクノロジーであり、前例のない短期間での対応となるため、アバナードとは毎日定例会を行い、タスクや課題の管理を実施した。技術的に不明瞭なことはアバナードへ確認しつつ、要件に関する課題については必要に応じて安武氏にエスカレーションする体制で開発を進めた」ということです。

スピーディな開発を実現させた背景には「トップダウンで早期実現にゴーサインを出してもらったことで、社内の関係者が皆、同じ方向を向くことができ、さらにアバナードが柔軟に対応してくれたことがポイントだった」と三上氏は振り返りました。

【成果】

2023年7月7日にリリースされた、みずほ証券版ChatGPTともいえる生成AI基盤は「MOAIチャット-Build on ChatGPT-」と名づけられました。グループ含む約1万人の全社員が使うことができ、主に「議事録やレポート等の文章作成」「プログラミングコード生成、開発業務効率化」「マーケティングやコンプライアンス業務での活用」といったユースケースで利用されています。

安武氏は「文章要約や校正、メールなどの社内文書作成

といった一般的なユースケースでは、便利で生産性が高まったという声が多く聞かれる」とし、「生成AIとは何かについて、社内の意識、リテラシーを高める点では十分な効果が得られている」と話しました。

一方、導入後の業務活用についても、アバナードの支援のもと、様々な施策が実施されています。その1つが「MOAIチャット勉強会」です。これは、アバナードから講師を招き、基本操作編2回、業務活用編2回の計4回、全社員参加のオンライン会議形式で行われたものです。最大で300名がリアルタイム視聴し、開催後は「社内のDX特設サイトでアーカイブ動画が閲覧できるようにした」と安武氏は説明しました。

「導入直後に、意図的に関する社内露出を高めた効果もあり、MOAIチャットには約2カ月で10万近くのアクセスがあり、多くの人に生成AIに触れてもらうことができた」ということです。

もう1つが「アーキテクチャ検討会」です。これは7月下旬から週次単位で実施されたものです。安武氏は「アバナードから有識者を招き、生成AI活用についてアイデアを持つ社内の7部門から個別に参加者を募り、アイデアの実現可能性や、アーキテクチャの観点からアドバイス、活用事例紹介などディスカッションを行った」と説明しました。

「具体的な業務に対してどう活用できるのかをディスカッションする検討会を通じて、アイデアの1つが導入に向けたPoC（概念実証）の段階に進み、PoCに至らないまでも継続検討をしている部門が複数ある」ということです。

さらに、社内の業務部門で、業務課題の解決をIT面から担う、いわゆる市民開発の担当者に向けて、業務アプリケーションに生成AIを組み込めるよう、機能をAPIとして提供する仕組みも整備しました。機能提供をリリース直後から開始したことで、特に社内の業務効率化はスピーディに取り組みが進んでおり「生成AIを組み込んだ業務アプリケーションのプロトタイプ構築は拡大しており、実際の業務での活用も進んでいる」ということです。

今後について、安武氏は「生成AIの業務活用を引き続き進めると同時に、生成AIを機械学習などの特化型AIなどともうまく組み合わせながら、さらなる業務適用を実現していくことがポイントになる」と話します。「本格的な業務適用のフェーズに進むためのニーズの深掘りや、そ

CASE STUDY

みずほ証券のChatGPT「MOAIチャット」の導入支援を通じて
生成AIの業務活用とリテラシー醸成を支援

の前提となる情勢の理解を深め、具体的な成果に結びつけていきたい」ということです。

また、安武氏は「生成AIだけでなく、テクノロジーの進化は日進月歩だ」とし、スピーディにテクノロジーを評価し、社内にデリバリーする重要性はますます高まると、その点でマイクロソフトに精通したアバナードとのパートナーシップが重要になってくると話しました。

三上氏は「タイトなスケジュールの中、対応を推進。アバナードが技術的に不明瞭な点を明確化してくれることでスピーディなリリースを実現してくれた」とし、今後もアバナードの支援のもと「ユーザー部門の要望を取り入れながら、生成AIを始めとするテクノロジーの業務適用を前進させていきたい」と締めくくりました。

みずほ証券株式会社

みずほフィナンシャルグループの総合証券会社として、海外19拠点、国内225拠点のネットワークで総合金融サービスを展開するみずほ証券株式会社。「お客さま本位」の徹底、「差別化と競争優位の確立」「グループ全体を牽引する成長機会の探求」の3点を軸にビジネスを前進させ、企業や投資家、社員を含めたすべてのステークホルダーの皆さまとともに、価値の共創に挑戦していきます。

ウェブサイト：<https://www.mizuho-sc.com/>

アバナード株式会社

〒106-6009 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー

電話番号：03-6234-0150

ウェブサイト：<https://www.avanade.com/ja-jp>

【アバナードについて】

アバナードは、マイクロソフトのエコシステムにおいて、デジタル、クラウド、AI、アドバイザリー サービス、各業界向けソリューション、デザイン主導のエクスペリエンスをグローバルに提供するリーディングプロバイダーです。

アクセンチュアと共に、マイクロソフトのGlobal SI Partner of the Yearを他社よりも多く受賞し、マイクロソフトから認定されたMicrosoft Most Valued Professionalsも最も多く有しています。また、保有する認定資格も最も多く（60,000以上）、18のゴールドレベルのマイクロソフト技能を持っています。企業の成長と困難な課題の解決を支援する稀有な企業です。

アバナードは、人々とマイクロソフトの力を活用して持続可能な世界の構築に貢献する、責任ある企業です。環境、社会、ガバナンスの目標に対する責任を果たし、長期的に持続可能なビジネスを実現しています。26カ国、60,000人のプロフェッショナルなスタッフが、多様な経験を活かして、顧客、その従業員、またそのお客様に、素晴らしい体験・影響という "真のヒューマン インパクト" を日々もたらしています。

*記載されている会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。



Do what matters